

## 「物流効率化セミナー in 横浜」

### 〔開催概要〕

- 日 時：平成29年8月4日（金）13:45～16:45
- 場 所：横浜第二合同庁舎1階 共用第二会議室
- 登壇者：門脇 幸治（株ラルズ商品統括部生鮮食品グループ第一商品部ゼネラルマネージャー）（敬称略）
  - 市原 卓弥（株シジシージャパン 生鮮事業部青果チーム野菜ユニット主事）
  - 松枝 良輔（株シジシージャパン グロサリー事業部米国・鶏卵チーム係長）
  - 野上 剛（全国通運(株)営業企画部次長）
  - 松尾 正俊（日本貨物鉄道(株) 鉄道ロジスティクス本部営業統括部営業開発室グループリーダー）
  - 岩澤 安夫（三井倉庫ロジスティクス(株)SCM 事業本部事業所統括部長）
  - 新田 健二（三井倉庫ロジスティクス(株)SCM 事業本部事業所統括部関東事業所長）
  - 井上 篤隆（鈴与カーゴネット(株)営業本部営業推進役）
  - 大野 宏（川崎近海汽船(株)経営企画部課長）
  - 北條 英（公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所ロジスティクス環境推進センター長）

### 【関係行政機関】

- 山口 栄二（関東経済産業局産業部長）
- 青戸 直哉（関東農政局経営・事業支援部長）

### 【国土交通省】

- 小幡 章博（関東運輸局交通政策部長）

### 〔議事次第〕

1. 開会
  2. 情報提供【第I部】
    - 「農林水産物輸出のための支援策等について」  
青戸 直哉（関東農政局経営・事業支援部長）（敬称略）
    - 「物流効率化に関する話題の提供」  
小幡 章博（関東運輸局交通政策部長）
  3. 講演
    - 講演1「ラルズ・シジシージャパン モーダルシフト推進協議会」の活動について  
＜講演者＞ラルズ・シジシージャパンモーダルシフト推進協議会
      - 門脇 幸治（株ラルズ商品統括部生鮮食品グループ第一商品部ゼネラルマネージャー）
      - 市原 卓弥（株シジシージャパン 生鮮事業部青果チーム野菜ユニット主事）
      - 松枝 良輔（株シジシージャパン グロサリー事業部米国・鶏卵チーム係長）
      - 野上 剛（全国通運(株)営業企画部次長）
      - 松尾 正俊（日本貨物鉄道(株) 鉄道ロジスティクス本部営業統括部営業開発室グループリーダー）
    - ＜聞き手＞小幡 章博（関東運輸局交通政策部長）
- 講演2「清水/大分コールドチェーン企画モーダルシフト推進協議会での取り組み内容」

<講演者>清水/大分コールドチェーン企画モーダルシフト推進協議会

岩澤 安夫 (三井倉庫ロジスティクス(株)SCM 事業本部事業所統括部長)

新田 健二 (三井倉庫ロジスティクス(株)SCM 事業本部事業所統括部関東事業所長)

井上 篤隆 (鈴与カーゴネット(株)営業本部営業推進役)

大野 宏 (川崎近海汽船(株)経営企画部課長)

<聞き手>小幡 章博 (関東運輸局交通政策部長)

#### 4. 情報提供【第Ⅱ部】

「最近の物流動向」

<講演者>北條 英 (公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所  
ロジスティクス環境推進センター長)

#### 5. 認定事業者と参加者による意見交換等

#### 6. 閉会

〔概要〕

#### ○情報提供【第Ⅰ部】

◎「農林水産物輸出のための支援策等について」→① [関東農政局資料](#)

##### ★青戸部長

- ・農水省、経産省、国交省と連携した農産品物流対策関係省庁連絡会議において、本年3月に中間とりまとめが公表された。
- ・農林水産物の輸出支援として、インフラ整備プログラムの中で農林水産物・食品の年間輸出額を平成31年に1兆円にするために様々な取組を行うこととしており、設備の整備等のハード面と輸出関連手続きのワンストップ化等のソフト面の双方を支援していく。
- ・輸出時の食品ラベルについて、栄養成分の記載等輸出相手国の規制や様々な対応が必要になるが、交付金等の活用や農政局への相談等も利用していただきたい。

◎「物流効率化に関する話題の提供」→② [関東運輸局資料](#)

##### ★小幡部長

- ・物流効率化について、昨年物流総合効率化法が改正され、より幅広くモーダルシフト、共同輸配送、輸送網集約事業等について支援していくこととしている。当局管内では法改正後、平成29年7月31日までにモーダルシフト4件、共同輸配送2件、輸送網集約事業4件の計10件の計画が認定されており、このほか申請中の案件もあり今後増えていくと考えている。
- ・トラック輸送の効率化について、各県単位でパイロット事業の実施しており山梨県の事例を紹介しているので確認いただきたい。
- ・予算関係について、環境省とともにLEVOを通じて補助事業を行っているので活用していただきたい。
- ・総合物流施策大綱（2017年度～2020年度）が閣議決定され政府として取組を行っていく。
- ・グリーン物流パートナーシップについて、経産省とともに推進しているので是非応募を検討いただきたい。また、平成28年度の表彰事例を紹介しているので確認していただきたい。

## ○講演

◎講演1「ラルズ・シジシージャパン モーダルシフト推進協議会」の活動について

→③ [ラルズ・シジシージャパン協議会資料](#)

### ★松尾氏

- ・(株)ラルズ、(株)シジシージャパン、全国通運(株)、JR 貨物(株)の4者で行っている事業であり、事業概要は青果物を中心とした鉄道輸送のモーダルシフトである。
- ・シジシージャパンは食品、青果物等の企画販売、ラルズは北海道、東北を中心とした食品、青果物等の小売販売、全国通運は鉄道利用運送事業、JR 貨物は貨物列車の運行を行っている。
- ・協議会のスキームとして、毎月1回定例会開催し前月の実績報告や課題解決に向けた検討等、情報共有をはかっている。
- ・鉄道輸送のメリットである小ロット（5トコンテナ）輸送により、平成28年度はコストを25%削減、CO2を60%削減できた。
- ・元々、食品輸送を平成26年から行っており、平成27年から青果物輸送を検討・実施し、平成28年に協議会を立ち上げ毎月1回の定例会を積み重ね、協議のうえ本事業の物流効率化法の申請・認定となった。
- ・平成28年度実績として25区間の輸送を行い、今年度は前年度と合わせ46区間の輸送を予定しており、更なる活動を行っていききたい。

### ★門脇氏

- ・コンビニ・ドラッグストアや人口減・買い物回数の減・マーケットの減等により、販売手法の変更に迫られており、中間流通の削減による仕入価格の見直しが大きな課題になっていた。今までは着値のみしか把握しておらず、発値や物流費に無頓着であった。その中でJR貨物の取組を聞き全国通運、JR貨物と物流一元化について協議し本事業に繋がった。
- ・総合効率化計画認定という国土交通省の認可があるというのは大きく、農家や農協に理解されやすい。
- ・本事業で物流を一元化することにより農家の収入向上や次の世代へのバトンタッチへも繋がっており、今後は水産物・食肉等の新たな領域に踏み込んでいきたい。

### ★松枝氏

- ・平成28年産の北海道米からモーダルシフトを始めた。温度管理がしやすいため玄米を取り扱っていたが、北海道から沖縄まで運ぶプロジェクトも立ち上げた。地域にはばらつきがあるがコストを10%削減、CO2を20%削減できた。
- ・良い商品を届けるための独自取組としてコンテナの結露状況の検証もしている。

### ★市原氏

- ・加盟者が全国にいるが、安心・安全のコストへの理解を得るために見える化することが重要であり、本事業に繋がる大切な要素になっている。

## ◎質疑

### ★小幡部長

- ・コストを25%削減について、予定していた数値等があれば説明いただきたい。
- ・リスクについて、鉄道の遅延を含めてコストを中心に説明いただきたい。
- ・総合効率化計画の申請にあたり、苦勞した点について説明いただきたい。
- ・今後の展開について、説明いただきたい。

### ★門脇氏

- ・小ロット輸送をうまく活用できたこともあり、結果としてコストを25%削減できた。
- ・事故等による遅延で生ものが0になる可能性があり、その際の負担先が議論になるが、補助があることによりリスク管理の一助ともなっている。

- ・申請は過去に経験済みであるが、書類作成自体は難しくない。
- ・現在、貨物の平均積載率は80%だがダイヤにより積載率が変わり、人気の便は余裕がないが、便によっては安価で活用することができる。

★青戸部長

- ・協議会を4社で始めたきっかけについて説明をいただきたい。
- ・現在の事業の課題について説明をいただきたい。

★門脇氏

- ・JR 貨物の北海道支社長とラルズのトップが懇親会で知り合ったのが発端であり、そこから話が弾み4社で行うことになった。
- ・温度管理が課題であり現状ドライアイスを使用して輸送しているが、蒸発等による温度管理の難しさがある。そのため、JR 貨物に対し氷のうコンテナの開発をお願いしている。

◎講演2：清水/大分コールドチェーン企画モーダルシフト推進協議会

→④ [清水大分コールドチェーン協議会資料](#)

★岩澤氏

- ・三井倉庫ロジスティクス(株)、鈴与カーゴネット(株)、川崎近海汽船(株)の3者で行っている。
- ・三井倉庫ロジスティクスは、国内物流を専門に行っており多くは家電製品であり業務用機器も取扱っているが、ラストマイル事業も行っており拠点も200カ所以上ある。

★井上氏

- ・鈴与カーゴネットは、貨物自動車運送事業を行っており静岡の立地を活かして関東～関西のスイッチ輸送を行っている。また、フェリー輸送とあわせトラックとの効率的な海陸一貫輸送を行っている。
- ・トレーラーについては、積載効率の観点からより容量の大きな車両の導入を進めている。

★大野氏

- ・川崎近海汽船は、アジア近海からフェリー、オフショア支援事業等幅広く業務を行っており、50年以上前からRORO船を使用したモーダルシフトを行っている。
- ・これまでは北海道を基盤とした事業であったが、現在の労働力不足に対する今後の展開として清水～大分航路を第三東名道路の開設ととらえ、新たなサービスの提供やモーダルシフトを展開していきたい。

★新田氏

- ・事業概要としては、群馬～大分のトラック輸送を清水港～大分港をフェリーに切り替えた。スーパーマーケット用のショーケースの輸送を行っている。
- ・従前からドライバー拘束時間やドライバー不足問題があり全国への配送に苦労していた。また、ショウケースの運送のため日々、配送場所がかわり定型的な経路をくめず、距離も1000～1500kmにもなるなかで清水～大分の新航路開設があり、この航路の活用による効率的な配送を検討した。
- ・顧客（スーパー）の営業時間を考えながら納期・車種・時間を調整したことが一番苦労した。また、工事の進捗状況や天候の急変による納期の変更にも対応できるよう港での調整も行った。
- ・配送については、モーダルシフトの推進のため顧客の協力を得ながらトレーラーの使用に努め、全運送59回のうち4回行った。この中には、4トン車でないと入れない店舗もあることから、運送可能なケースでの割合は1/3になる。

- ・また、納品場所の下見を行ったうえで顧客への説明をしてモーダルシフトの推進に協力してもらった。

#### ◎質疑

##### ★小幡部長

- ・トレーラーの運送回数が59回中4回だが、想定数はどのくらいを予定していたか。
- ・ショウケース以外の家電等の運送は考えているのか。

##### ★協議会

- ・想定数はその3倍くらいを考えていた。
- ・家電は地域の拠点から運送するので検討していない。

##### ★山口部長

- ・荷主が一番気にしていたことと、それに対してどのように対応を行ったか説明をいただきたい。
- ・九州以外の地域で本件事例と同内容のモーダルシフトを考えている地域があればいただきたい。

##### ★新田氏

- ・納期、サービス、品質を気にしている。本部では理解していても現場では頓挫ということを防ぐため、本部間や現場間レベルでも話し合いをしっかりと行った。
- ・モーダルシフトを考えている地域については、大阪以西を候補としている。

#### ○情報提供【第Ⅱ部】→⑤ [JILS 資料](#)

##### 「最近の物流動向」

##### ★北條氏

- ・データから物流の動向、特に運賃の上昇について見てみる。
- ・マクロ的状况でコストを見ると、物流の市場規模40~50兆円であり大手3社で全体の約13%を占めている。対GDP比では約8%から10%の間で推移している。
- ・CO2は貨物輸送部門対90年比で全体が3.45%増に対し営業用トラックは8.4%増となっている。
- ・輸送量は国内貨物分担率が2005年度以降、毎年自動車の内航船舶を上回り続けている。
- ・トンキロあたりコストは、営業用貨物自動車がこの5年で2.5倍になっており、CO2排出量とともに航空より高くなっている。これは積載効率の悪化が主原因と考えられ、営業用貨物自動車でも40%台で推移している。
- ・営業用貨物の流動ロットと積載効率には強い正の相関があり、販売アイテム数が増加すればするほど販売数量は減少しており、2010年頃からそれが大きくなる一方である。
- ・物流コストについて、2016年度に上昇幅が過去20年間で最大となっている。
- ・今後は価格交渉ではなくシステムを含め全般的な見直しが必要なる。

#### ○認定事業者と参加者による意見交換等